

# 国内初出土のベトナム「開泰元寶」

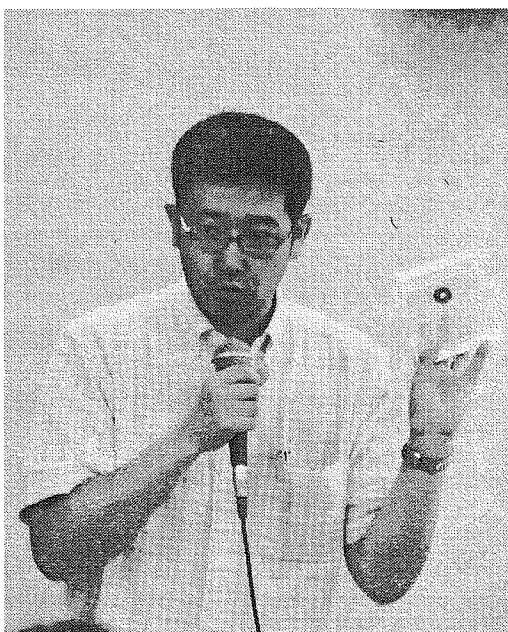
【知内】知内町郷土資料館主催の「ふるさと講座」が4日夜、町中央公民館で開かれた。涌元古銭の中から国内で初めて見つかったベトナムの「開泰元寶」(かいたいげんぽう)について、東アジアの考古学が専門で専修大学講師の三宅俊彦さんが、なぜ知内に流入したかなどの疑問に答えた。会場には町内外から多くの歴史ファンが集まり、涌元古銭への理解を深めた。

(松宮一郎)

## 専門家が講演

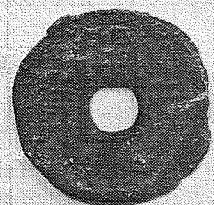
### 知内でふるさと講座

涌元古銭は1951年、町関市立大の桜木晋一教授と三宅さんが確認した。この日の講演で三宅さんは、涌元古銭や函館市の志海苔古銭について「ノイヌと和人の戦い」「コシヤミンの戦い」(1457年)で館(中世の砦跡)付近が混乱し、大切な金を埋めたのでは」と解説。



「開泰元寶」の流入ルートなどを語る三宅さん

涌元古銭の中から見つかった国内初出土のベトナムの「開泰元寶」



られたもので、国内初の発見例であると断定した上で、「ベトナムで流通していた金の大部分が中国で作られていたもの。自国で作ったものは非常に少ないため、貴重で学術的な価値も高い。貨幣経済を担うためのものではなかったのではないかとした。

また、流入ルートの可能性として①サハリン経由②日本海を挟んだ「中国沿海州ルート」③南回りの「本州ルート」の3つを挙げ、それぞれの銭種組成(古銭の種類割合)を比較したところ、「本州からもたらされた可能性が高い」とし、さらに「ベトナムから直接、本州へ来たのではなく、中国もしくは琉球を経由したと考えられる」と語った。

また、函館高専の高橋直樹准教授が発見にいたるまでの経緯、中村教授がエックス線分析器を使った非破壊分析の結果について語った。来場者は真剣な表情で解説に聞き入り、熱心に質問するなどして

いた。郷土資料館の高橋豊彦学芸員は「知内と日本列島、アジアとのつながりを理解するのに役立った」と話していた。

## 作ったロケット

森で楽しい



ロケットを打ち上げる子どもたち

## 夜神楽 華麗な舞

あじさい祭りでも多彩な催し満喫

【松前】松前神社例大祭の宵宮祭に合わせ、「あじさい祭り」(実行委主催)が4日夜、松前公園内にある同神社前の広場で開かれた。見ごろを迎えたアジサイに囲まれ、来場者らはレジャーや夜神楽など多彩な催しを楽しんだ。

村は仕事帰りの町民らで満席になり、ビールで乾杯し、焼き鳥や焼きそばなどを味わいながら、おもしろいビールを飲み干していた。

町商工観光課では「今年のアジサイの咲き始めは平年通りだったが、今年は見ごろが1週間ほど遅れていたため、8月中旬まで楽しめる」と話している。

(松宮一郎)

## 躍動の舞

「どっこいしょー、どっこいしょー」



同公園内にはアジサイが約2000株植えられており、同町のシンボルである春のサクラに続き、夏のアジサイをアピールしようとイベントを企画、今回で6回目。

【森】森町消防本部は、来年度採用の消防職員募集。年度採用の消防職員2人を募集している。

受験資格は26歳未満で、救急救命士有資格者、資格取得見込み者で、普通自動車

